

2022 01 Winter

認定 NPO 法人がんサーネットジャパン

CNJ Speakers

Know(≠No)More Cancer 私たちは、もっと伝えたい



No.
25

パズルのピースを合わせるように「がんのこども」へ支援を
CNJ News / CNJ Report
海外がん医療 TOPICS

パズルのピースを合わせるように

がんのこども

へ支援を

中井 美穂

×

中島 美穂

CNJ 理事/フリーアナウンサー

小児腫瘍科医

がんは、大人だけがかかるものではありません。

赤ちゃんや幼いこどもでも、発症する場合があります。

その総称が「小児がん」。シンボルマークは、ゴールドのリボンです。

昨年(2021年)9月には、世界的な小児がんの啓発月間

「グローバル・ゴールド・セプテンバー・キャンペーン」に、日本も初めて参加しました。

今回は、小児がんの専門医である中島美穂先生とフリーアナウンサー/CNJ理事の中井美穂さんが、

こどものがんだからこそその課題や展望を語り合います。

本対談は感染症対策を十分に行った上で実行しました

少数、 でも多岐にわたる 「小児がん」

中井：こどもは、宝物です。しかし未だ、社会では小児がんのことがあまり知られていないようです。

中島：こどもががんになること自体、知らない人も多いと思いますが、5歳から14歳までのこどもが亡くなる原因として最も多いのはがんなんです。小児がんは、一般に15歳未満のこどもがかかるがんのことですが、成人のがんに比べるととても少数。割合でいうと、1年間にがんと診断される成人は100万人くらいですが、小児がんと診断されるのは100人くらいです。さらに小児がんの種類は、白血病、脳腫瘍、神経芽腫などを含む固形腫瘍などさまざまで、それぞれに治療法も違います。

中井：私も以前は、「小児がん」という病気があるのだと思っていました。たくさん種類があって、そのすべてを小児科の医師が診ていると知ったときは衝撃でした。こどもだから治療も少なめにするのかと思ったら、逆に多く使うそうですね。

中島：成人がんの場合はがんの種類によって診療する科が分かれていることが多いですが、小児がんはすべての種類を小児腫瘍科で診療

約8割が 治るからこそ、 大きな課題も

中井：小児がんには、まだまだ多くの課題がありますね。

中島：新しい治療法の開発、家族やきょうだいを含めた精神的サポート、治療後の長期的なフォローアップなどがあげられます。小児がんは患者さんの数が少ないため(小児がんのすべてが希少がん)、治療薬の開発が難しい分野です。製薬企業も採算をとるのが難しく、なかなか開発が進みにくい現状があります。その長年の問題を解決するため、世界各国が一致団結し、小児がんのこどもたちに新しい治療を提供していくこと

しています。薬の量についても、体の大きさに対する薬の量としては、多く使うことがあり、治療によっては大人では耐えられないような量や投与スケジュールで治療します。でも、こどもたちは治療を受けながらも廊下を走り回っていることがあって、こればかりは、すごいとしか言いようがありません。こどもの臓器は、大人になるにつれて受けていく環境ダメージがまだ少なく、予備力(負荷に対する抵抗力)が高いです。そのような精神的、肉体的なこどもの力に、診療する私たちが逆に支えられています。

いう流れが生まれています。2014年には、より良い治療を作り上げていく研究グループ(JCCG/Japan Children's Cancer Group/日本小児がん研究グループ)が日本国内でも立ち上がりました。

中井：治療における、海外との格差はありますか？

中島：標準治療(科学的根拠に基づき、現時点で最も推奨される治療)は、日本でもほとんど受けることができます。しかし、いわゆる新薬の開発は、海外の方が進んでいます。例えば、日本で2021年6月に承認された、神経芽腫の治療薬「ユニツキシン(一般名ジヌツキシマブ)」は、米国では20年以上前から患者さんに投与されていました。私は、2012年から米国ニューヨークの病院で診療をしていたのですが、渡米当時、日本にはなかったこの薬がすでにアメリカでは幅広く使われているという事実にとっても驚きました。それから現在までの30年以上にわたり、海外ではこの薬も進化し続けていて、その初代の薬がようやく今、日本で使えるようになったというわけです。

海外の薬が使えるようになるには、日本でもしっかりと試験を行い、安全性を確かめたうえで承認されるので、どうしても差は生じてしまいます。しかし、海外で長く標準治療となっている薬が日本では使えない「ドラッグ・ラグ」は深刻な問題であり、この問題を改善していくことは、我々医療者のみならず、社会として、国として解決していくべき課題といえるのではないのでしょうか。

中井：入院中は、両親が泊まりがけで付き添うこともあるそうですね。治療中のこともだけでなく、まだ幼いために寂しい思いをしてしまうようないや、両親の心のケアも重要だと聞きました。どのようなサポートがされているのでしょうか。

中島：当科では、入院したときから心理士が全患者さんとそのご家族のサポートに入ります。患者さんとご家族の悩みや不安に耳を傾け、状況に応じて医師や専門看護師につなげるなどしています。心理士のほか精神科医など、さまざまな職種が連携をとり、週に1回カンファレンス(会議)を行うのですが、「えっ! そんな悩みを抱えていたの!?!」という話が出てくることもあって。サポート体制はあるけれど、悩みなどを自分からは言い出せない方もいます。そのような場合は、子ども療養支援士(治療中のこどもの心理的ケアのスペシャリスト)さんなどに遊びの場を通じて気持ちを引き出してもらうこともあり、いろいろなタイミングでいろいろな角度から悩みに気づいていけるようにしていくことが必要です。

中井：コロナ禍の今、多くの病院で面会制限がされています。入院していることもたちは、つらい日々を送っているのではないのでしょうか。

中島：病棟内でコロナ感染を起こさないためにも、面会はかなり厳しく制限せざるを得ない状況です。具合が悪いときは少し融通を利かせることもあります。基本的には「家族1人と数時間だけ」となっています。遠方から治療に来ていることも多く、ご家族は、ファミリーハウス(自宅から遠く離れた病院で治療することもと家族を支援する滞在施設)などに滞在しながら治療中のお子さんを見守っています。それなのに、数時間しか会えませんが。命に関わる病気のこともたちにとつて、お父さんやお母さんは、大きな支え。現在のコロナ禍ではきょうだいにも会えないですし、会いたい人に会えないのは、本当につらいと思います。

中井：寂しさや不安をやわらげるために、病院として行っていることはありますか。



中井 美穂 (なかい みほ)

CNJ 理事/フリーアナウンサー

日本大学芸術学部を卒業後、フジテレビ入社。「プロ野球ニュース」「平成教育委員会」などの番組に出演。フジテレビ退社後「世界陸上」(TBS)のメインキャスターを務める他、「タカラヅカ・カフェブレイク」(TOKYO MXテレビ)などにレギュラー出演。各種イベント、クラシックコンサートのファシリテーターなど活躍している。2019年キャンサーネットジャパンの理事に就任。がん啓発のイベント・各種学会の市民公開講座で司会もしている。



中島 美穂 (なかじま みほ)

国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科・国際開発部門

日本小児科学会専門医、米国小児血液腫瘍専門医など。日本で小児がんの診療に10年携わったのち2012年に渡米。アメリカにあるニューヨーク州立大学病院で小児科研修、その後Memorial Sloan Kettering Cancer Centerで小児血液腫瘍フェロー及び小児免疫療法フェローとして、患者さんの診療および神経芽腫の抗体療法に関する研究を行った。2018年より現職。

中島：治療中でもあるべく家に帰れるようにしています。また、入院中の子どもたちのためには、子ども療養支援士などが、何とか楽しい場を作るように工夫しています。ただ、子どもたちって、楽しいことを見つけないと天性の能力があるというか、その場に合った遊びを見つけないと上手です。そのため、病棟は想像するよりも暗い雰囲気ではありません。

中井：課題としても一つ「治療後の長期フォローアップ」がありました。これは子どもの病気だからそのフォローでしょうか。

中島：現在では、小児がんの約8割が治るようになっていきます。一方で、治ってから的人生が長いので、小児がんを克服し、治療の影響である晩期合併症を抱えながら学校や社会で頑張っている方もたくさんおり、その長期フォローアップや支援が世界的な課題となっています。以前は、こどものころにがんになると、大人になるまで自分がどんな病気だったのかを知らないということもありました。でも、大人になったら自分で考えて、自分でケアしていかなければなりません。そのため近年では、基本的なこどもにもしっかり病気のことを伝え、一緒に治療に取り組むようにしています。

そして、成長の過程でフォローが必要になったとき、それが受けられるような仕組み作りが求められているのですが、まだ体制は十分ではありません。例えば、AYA世代（思春期〜若年成人）になると、小児科を受診するのか、成人の科に行くのか、その引き継ぎが、医療としてうまくつながっていません。海外や日本でもガイドラインは作られています。長期フォローアップはまだ大きな課題です。

パズルのピースのように 人がつながり、 「小児がん」を伝え、 支援していく

中井：昨年、「グローバル・ゴールド・セブテンバー・キャンペーン」が日本でも初開催されましたが、私にとってもゴールドリボン元年でした。小児がんのこどもやご家族をサポートするために、自分の持つネットワークを活用したいと思いました。

中島：実は私も、ゴールドリボンの1年生だと思っています。昨年「○○の企画広報委員会」に入りましたが、小児がんを診ている私たちは、熱い想いはすごくあるけれど、不器用です。医療の世界は、自分たちでは気付かないくらいコミュニティが狭い。その中でやっているだけでは熱は外に伝わっていかず、大きな問題だと感じていました。

中井：当事者ではない人たちにどう伝えていくか、どうからめていくかが重要だと思っています。「ゴールドだから、金」が付く企業に行こう」と、いろいろな会社へ飛び込んでみました。結果、信用金庫が支援してくれることになったり、ukaという会社がゴールドのネイルポリッシュを作り、売り上げの半分を寄付してくれたり。接点のなかったところが、話を聞いてくださいました。

中島：とても素敵ですね。海外でも、さまざまな人が小児がんのこどもたちをサポートするプロジェクトが多くあります。ヨーロッパで行われたあるイベントで、患者団体代表の方が「パズルをみんなで組み立てていきましょう」と言いました。「誰がどのピースを持っているか分からないけれど、ちょっと声をかけてみたら、横にいた知らない人が、実は必要なピースを持っていて、それらがつながって、パズルが形になっていく。まずは隣の人に声をかけてみましょう」と。これは、私にはなかった発想でした。このゴールドセブテンバーキャンペーンを企画する中で、医療者以外の人々にもどう伝えていくかをみんなで話し合い、周囲の人からもアイデアをもらいました。外来で「小児がんのリボンの色を知っていますか」とご家族に声をかけ、いろいろやってみたのですが、たしかに、こういうことはこれまででしたことがなかったなと思いました。

中井：話をしたからこそ、つながっていくものがありますね。それがムーブメントになっていくのかもしれない。

中島：アクティブにみんなが考えていけるような雰囲気を作ることが大事だと思います。昨年は、こうやって伝えていかなければいけないことに気付かされた、私にとって大きな1年でした。

まずは、小児がんというものの存在を知ってもらいたい。さらには、抗がん剤治療をしながら院内学級で勉強をしているこどもたちの、そのがんばりを知ってもらいたいですね。まずはそこからだと思います。まだまだこれから。やるべきことはたくさんあります。

文／木口マリ 写真／AKANE



より良い明日へ

患者さんとそのご家族の「満たされない願い」に応えるため、革新的な新薬をいち早くお届けすることが私たちの使命です。医薬品の開発を通じて人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献していきます。

バイエル薬品株式会社 <https://pharma.bayer.jp>

Science for a better life

PP-OTH-JP-0431-02-08

小児がん啓発CNIの Gold September Campaign

CNIでは昨年より小児がん啓発月間（ゴールドセプテンバー）である9月に向けて、小児がん啓発を積極的に行ってきました。はじめの一歩として、小児がんの啓発カラーであるゴールドでピンバッジを作成し、販売を開始しました。

社会へ小児がんの理解や協力を求めるためにはどのような策が有効かを早稲田ビジネススクール（WBS）と共同で啓発を検討、WBSの皆さんの呼び掛けで850個のピンバッジ売上に貢献してくださいました。

ゴールドネイルで啓発を！と協力してくださったのはトータルビューティーカンパニーの株式会社ウカ。ゴールドセプテンバーに合わせ限定販売された1000本の「ネイルポリッシュ」は完売し、9月30日に150万円のご寄付をいただきました。



- ①小児がん啓発ゴールドピンバッジ
②早稲田ビジネススクール（鶴谷ゼミ）メンバー
③UKA ネイルポリッシュ（上）・寄付目録授与式（下）
④喜んでくれたYくん
（国立成育医療研究センター提供）
⑤ファミちゃんが応援！（ファミリア提供）
⑥プレゼントした自由帳とおやさしいクレヨン

また、株式会社ファミリアの神戸本店と代官山店ではキャラクターのファミちゃんが、CNI小児がん啓発ゴールドリボンを付けて啓発へ協力してくれました。

啓発活動が続いているうちに、コロナ禍で面会制限の厳しい小児病棟には、我慢を強いられている小児がんの子もたちが大勢いると知りました。寂しさを堪えながら頑張っている子どもたちを治療を受けている子どもたちにも少しでも笑顔になってほしいと、城南信用金庫と富国生命の協力を受け、自由帳とおやさしいクレヨンを全国の小児がん拠点病院に約3000セットプレゼントしました。

小児がん啓発ゴールドリボンバッジの啓発は多くの著名人政治家の皆さんも協力してくださり、その収益で、冊子「もっと知ってほしい小児がんのこと」の制作を開始しています。完成は今年3月の予定です。全国のがん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院の相談支援センターへお届けしますので、活用していただけることを願っています。

文／古賀



この活動の詳しい内容については、9月の小児がん啓発月間特設ページ（<https://event.cancernet.jp/child-cancer/>）よりご覧いただけます。



小児がん専門医への インタビュー

CNI理事の中井美穂アナウンサーが、小児がんの専門医へインタビューをする企画「小児がんについて親と教師が知っておいたほうがよいこと」が、EdTechZine（エドテックジン）へ掲載されました。このメディアは教育や学習のテクノロジーを活用して「教育」や「学習」をアップデートしたい方々を対象のオンラインメディアです。小児がんについて、教師や親御さん、一般の方々に知っておいてほしいことを詳しく伺いました。ヤフーニュースでも取り上げられた記事です。広くご紹介いたします。

文／古賀

1回目テーマ（2021/09/13公開）

「社会へ小児がんサバイバーへの
理解を広めるために」

真部淳 先生

（北海道大学大学院医学研究院小児科学教室 教授）

<https://edtechzine.jp/article/detail/6268>

記事を読む



2回目テーマ（2021/11/16公開）

「AYA 世代（思春期・若年成人）
のがん」

大賀正一 先生

（日本小児血液・がん学会理事長）

<https://edtechzine.jp/article/detail/6577>

記事を読む



To serve patients

患者さんのために、今できるすべてを

アムジェンは1980年、バイオテクノロジーの黎明期に米国カリフォルニア州ロサンゼルス近郊にて産声を上げました。

バイオテクノロジーを患者さんのために役立てることを決意し、以来、探求を重ねてきました。

40年を経た現在、アムジェンは世界最大規模の独立バイオテクノロジー企業へと成長しました。

日本では、循環器疾患、がん、骨疾患、炎症・免疫性疾患、神経疾患の領域に重点を置き、アンメット・メディカルニーズに応える製品開発を進めています。

アムジェン株式会社 **AMGEN**

血液がんフォーラム2021

オンライン開催報告

今年で3回目となる血液がんフォーラムは11月20日(土)～21日(日)にオンラインで開催いたしました。

このフォーラムは認定NPO法人キャンサーネットジャパン、JCO(日本小児がん研究グループ)、一般社団法人グループ・ネクス・ジャパン、はまっく(多発性骨髄腫患者・家族の交流会)の共催で開催。海外を含むさまざまな地域から、ご入院中の病室からアクセスしていただき、視聴ページのページビュー数は598回、全37テーマの延べ視聴者数(交流会参加者は除く)は1600名を数えました。血液がんの中でも罹患者数の少ない疾患解説の他に、血液がん患者の本音トーク、感染対策、血縁ドナー、セクシュアリティ、在宅医療、グリーフケアなどのテーマも多数取り上げました。患者さんの交流会も和やかな雰囲気で開催されました。

開催後に寄せられたアンケートでは、90%以上の方が、血液がんフォーラムの参加に満足と回答、患者さんやご家族以外に、医療従

事者の参加が多いのも特徴的でした。フリーコメントでは、高評価・励ましのコメントが多い一方で、広報不足を痛感するコメントもいただきました。次回以降に活かしてまいります。また、多くの方に寄付でのご支援を頂きました。改めて感謝申し上げます。今後の開催のためにも引き続きご寄付によるご支援をお願いいたします。

文/池田



血液がんフォーラムを
寄付で
応援!



<https://bokinchan3.com/cnj/stb/bokin/page1.php>

アーカイブ
配信は
順次公開!



https://www.cancernet.jp/bcf_2021



参加者からのコメント(一部)

- ・1日しか参加できなかったのが悔やまれます。
- ・老人にとっては、参加しやすいオンライン形式を再認識しました。
- ・オンライン開催になり、遠方の者にとっては非常にありがたいです。
- ・皆様が私たち患者のために、自分の時間や労力を与える精神に感謝しています。皆様からの明るさにも元気づけられました!母も私も「受けるより与える方が幸福」という言葉が好きですが、皆様はまさにその通りですね!
- ・癌ではない友人も視聴してくれ、私の病気を分かろうとしてくれました。
- ・このフォーラムをもっと告知して欲しいです。

 Bristol Myers Squibb™
ブリストルマイヤーズスクイブ

サイエンスを通じて、 患者さんの人生に 違いをもたらす™

深刻な病と闘う患者さんに革新的な医薬品を開発し、提供する。
私たちは、この使命を胸に、世界中であくなき挑戦を続けます。
ひとりでも多くの患者さんに、新たな希望をお届けするために。
患者さんの人生に違いをもたらすイノベーションを起こす。
それが、私たちの務めです。





www.cancernet.jp/hematologiccancer/

詳細は
こちらから



血液がんは患者数も少なく、治療も造血幹細胞移植など特殊なものが複数ありますが、治療も改善されています。是非、多くの方々に活用していただければ幸いです。

文／古賀

動画で学ぶ「もっと知ってほしい
血液のがんのこと」
最新情報にアップデート!

動画で学ぶ「もっと知ってほしい血液がんのこと」は2014年に佐賀大学医学部血液・呼吸器・腫瘍内科とキャンサーネットワークジャパンの

コラボレーションで、血液がん啓発として作成した動画サイトです。9名の専門医による12本のビデオの総再生回数は16万5,000回を超え、大変役立つサイトと好評でしたが、そろそろ情報をアップデートすべき時期と判断し、この度、疾患解説動画10本を再収録いたしました。講師も新しく岡本翔先生、嬉野博志先生、勝屋弘雄先生にご協力をいただき、再収録したビデオにはセンテンスごとにキャプチャーを入れ、更に視聴しやすくなりました。

主に疾患概要と治療情報について、診断されて間もない患者さんやご家族でも、基本的な内容を体系立てて学ぶことができます。



冊子詳細は
こちらから

www.cancernet.jp/cll



冊子・動画も併せてご活用ください

「慢性リンパ性白血病」については、監修の鈴宮先生にご解説していただいた血液がんフォーラム 2021(11月20日～21日開催)での動画もアーカイブで公開しています。こちらでもご覧いただくとより理解が深まります。ご活用ください。

動画視聴は
こちらから



講演動画: https://youtu.be/KLjAggGUxcc

慢性リンパ性白血病 (CLL) は血液がんの一種で、骨髄やリンパ節の中で異常なB細胞がゆっくりと増殖する病気です。約半数の人は健康診断などの際、症状のない初期の段階で発見されます。日本での罹患者数は白血病全体の約3%と少ない病気です。初版以降、治療の選択肢が増え、診療ガイドラインも改訂されました。また、遺伝子や染色体の検査の結果によって、個々の患者さんに合った治療法を選択する時代になりました。最新版の冊子をご活用ください。

文／池田

冊子「もっと知ってほしい
慢性リンパ性白血病
のこと」改訂

2018年に発行した冊子「もっと知ってほしい慢性リンパ性白血病のこと」を「ミニニティ

ホスピタル甲賀病院副院長 腫瘍・血液内科・内科、島根大学名誉教授の鈴宮淳司先生監修のもと改訂しました。



命を明日につなぐ。希望は世界中にある。

課題と国境を越えて、人々の明日をひらく製薬会社、ヤンセンファーマ。

世界のすべてが、私たちの研究室。

病と懸命に闘う患者さんのために、高い科学技術、独創的な知性、世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。

すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。複雑な課題にこそ挑んでいく。

新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。

革新的な薬や治療法を、届ける。世界中に、私たちを待つ人がいる限り。

誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。

そんな「当たり前」の願いのために、自ら変化し、努力を続けます。

ヤンセンファーマ株式会社

www.janssen.com/japan

www.facebook.com/JanssenJapan



Japan Cancer Forum 2021

オンライン開催報告

がん患者さんやご家族、一般市民のための日本最大級のがんフォーラムとして開催しているJapan Cancer Forumは2021年8月20～21日にオンラインで開催しました。

8回目の開催となる今回のテーマは「Return to the Origin」科学的根拠に基づいたがん医療情報を。がんになっても生きがいのある社会を。」とし、コロナ禍において「正しい医療情報の入手」について改めて考える機会となるように工夫しました。

オンライン開催では、当日来場者をお迎えるための準備や運営こそありませんが、全国各地からご講演される登壇者や司会者の通信環境が悪いと講演をお届けできなくなりま。そこで、事前のテストやあらかじめ講演を収録するなど、スタッフだけでなく無償で協力いただくご登壇者にとっても、開催前の準備は会場での開催以上に必要になります。そのような中、今回も全国各地からJCF開催

に賛同して下さった多くの登壇者に支えられ、開催することができましたことを改めて御礼申し上げます。

2日間の総ページビュー数は46,152回と大変多くの方に視聴いただきました。当日ご参加いただけなかった方々へ当日の動画をご覧いただけるようにしていますので、ご活用ください。

また今回は、何とか患者さん同士の交流の場を持ちたい、ご来場いただいているような雰囲気を出展ブースをのぞいてみてほしい、と「全員集合！どこでもドアで交流会へ」という時間も設けました。まだまだ改善すべきところはありますが、多くの方から満足いただけただけをうれしく思いました。今後も継続して開催できますよう、皆様方からの寄付によるご支援も引き続き協力お願い申し上げます。

第6回Japan Cancer Forumは2022年8月6日(土)～7日(日)の日程でオンライン開催の予定です。

文/池田



2021年のアーカイブ動画は
 キャンサーチャンネル
 JCF 特設サイトで
 ご覧いただけます。

www.cancerchannel.jp/
www.japancancerforum.jp/



movie

JCF 2021 MOV



Lilly



第12回

リリー・オンコロジー・オン・キャンパス

がんと生きる、わたしの物語。

絵画 × 写真 × 絵手紙 コンテスト

作品募集中

あなたの物語を表現してみませんか

応募登録期間 (当日消印有効)

2021年8月17(火)～2022年1月31日(月)

リリー・オンコロジー・オン・キャンパス事務局

〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜2-2-28 堂島アクシスビル7階 (東武トップツアーズ メディカルカンファレンスセンター大阪内)

☎ 0120-78-1307 10:00～18:00 平日(土日祝日除く)

✉ info@locj.jp

🌐 www.locj.jp



ちややまちキャンサーフォーラム

オンライン2021開催報告

MBS 毎日放送と共催し今年で7回目となる「ちややまちキャンサーフォーラム」。今年は12月11日（土）オンラインで開催しました。

最初に上田悦子アナウンサーの進行で「開始！乳がんオンコタイプDX 5個別化医療はどこまで進む？」をテーマに大阪国際がんセンターの中山貴寛先生に講演いただきました。乳がんの診断から治療までの流れやサブタイプについてお話しいただいたあと、12月1日より保険収載予定だったオンコタイプDX検査について解説されました。この検査は術後病理検査の結果、再発リスクや抗がん剤の効果がどれくらい見込めるかの判定をする検査で、21の遺伝子について調べ、再発スコアという0~100の数字で評価されるということ、また全ての乳がん患者が対象となるわけではなく、新規に診断された早期浸潤性乳がん、ホルモン陽性、ER陽性、リンパ節転移3個以下の条件があることなどをお話しいただきました。気になる開始時期についても、来春頃ではとお話しされていました。Q & A セッションでは乳がんサバ

イバーでBEC 14期の油井千寿さんにもご登壇いただき患者の立場から事前にもいただいた質問に丁寧にお答えいただきました。

次に、国立がん研究センターの中山富雄先生が「検査は？ワクチンは？コロナ禍で戸惑う皆さんの疑問に疫学のプロが答えます！」をテーマに、コロナウイルスの検査方法、がん患者がコロナウイルスに感染した場合などお話しいただきました。そのなかでがん患者さんでも合併症がある人は予後が悪くなるが、そうでない人は一般の方とリスクは変わらないデータもあると話されました。コロナウイルスの重症化リスクについては、高齢、喫煙、肥満など、がんのリスクと同じであることもお話しされました。最後は高井美紀アナウンサーの進行で「もっと知りたいAYA 5多様化する今、若年性がんサバイバーの声を届けよう」をテーマにスペシャリストセッションが行われました。まず、大阪国際がんセンターの多田雄真先生がAYA世代について、彼らの抱えている問題



上左から：
上田悦子アナウンサー／中山貴寛 医師／油井千寿さん

下：中山富雄 医師



アーカイブ動画は
ちややまちキャンサー
フォーラム特設サイトで
ご覧いただけます。

www.cancernet.jp/mbscnj/

movie



左から：
高井美紀アナウンサー／原口文仁選手／矢方美紀さん／谷島 雄一郎さん
多田雄真 医師／佐藤太郎 医師

などについて話されました。その後、大阪大学の佐藤太郎先生と、OSU患者でダカラコソクリエイト発起人の谷島雄一郎さん、そして特別ゲストとして大腸がんサバイバーで阪神タイガースの原口文仁選手、乳がんサバイバーで元SKE 48タレントで声優の矢方美紀さんが登壇しました。事前に「集まれ！患者会」と題して、23の患者会や支援団体・企業の皆さんにオンラインで集まっていたいただき、様々なテーマに沿って行った座談会の内容についても触れ、AYAの問題は多種多様であることへ複雑な心理を抱えていることなどについて、原口選手、矢方さん、谷島さんそれぞれの体験や思いをお話しいただきました。原口選手の「がんになったらメンタルは大きなウエイトを占める。何か熱中するもの、大好きなもの、1つでもあれば病気に対して前向きな気持ちになれるのでは」という言葉が印象的でした。最後になりましたが、本イベントにご支援下さいました日本イライリリー株式会社を始め、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

文／水野

情報のチカラでつなぐ未来の医療。

私たちの使命は、患者さんのために、医療従事者や製薬企業の方々へ確かな情報をリサーチ・分析し、発信することです。

4つの目線（地域、患者さん、疾患、製品）で医薬品マーケットの本質を理解し、ソリューションを提供いたします。



国際ライフサイエンス株式会社

<https://ilsnet.co.jp>

日米の視点から見る 患者と医師の関係

米国のNYを本拠地とする乳がん、婦人科がんのサポートグループSHARE主催のオンラインイベント「日米の視点から見る患者と医師の関係」が12月18日（土）オンラインで開催されCNIも運営に協力しました。

冒頭NYUの腫瘍内科ジエームズスバイヤー医師が「医師は友人を知るように患者さんを知ること。そして正直であること、その人にもっとも相応しい言葉で話をする必要があるです」と話され、その後、米国で仕事をする日本人の医療者たちのトークが始まりました。日本では医師にお任せという患者が多いため、医学教育の中でコミュニケーションの時間が少ないことが上げられました。コロナビア大学の中川俊一先生は、「医療を受ける立場から言えば、日本の方がいい。ただ、患者さんが日頃から死について話すことが出来ているところは米国の方が進んでいる。自分は何が楽しくて生きているのか、何がなければ生きている意味がないかなどを日頃から家族内でオープンに話しておくことが大切」と話しました。

SHARE日本語プログラム代表のブローディー愛子さんは、「私達のSHAREは不安や恐怖で医師の話が入ってこない患者さんの耳となり、一緒に医師の話の聞こえというサポートもしています。日本の医療者も、もっと私たち患者の力を信じてほしい」と話しました。

プログラムはこちら



www.cancernet.jp/
share211218

文／藤原

オンライン市民公開講座 「コロナ禍における上手な がん医療のかかり方」

7月18日（日）日本イーライリリー株式会社との共催で「コロナ禍における上手ながん医療のかかり方」を開催しました。がん研究会有明病院乳腺内科部長の高野利実先生の講演の後、聖路加国際病院看護師の橋本久美子さんの進行で、高野先生と、患者の立場から、CNI認定乳がん体験者コーディネーター大友明子さんと三重乳がん患者の会代表大西幸次さんが、事前に寄せられた質問に答えました。「過度な受診控えが良くないことはわかっていますが、控えてもよいものさうでないもの境目がよくわかりません。」という質問には「マスク、手洗いなど基本的な対応をすれば、感染リスクはそれほど高くないことがわかってきています。特にがん患者さんで通院が必要とされる場合は、予定通り受診されることが大事です」と高野先生。また丁度ワクチン接種が広がり始めた時期だったこともあり、「抗がん剤治療中のコロナワクチン接種で気を付けることを教えてほしい」と「コロナワクチンの副作用でリンパ節が腫れる場合、がんの再発につながったりしませんか。」などワクチンに関する質問が多く寄せられました。



このQ&Aはキャンサーネット
日本のCOVID-19の
ページに掲載しています。



www.cancernet.jp/covid-19-qa

文／藤原

みんなに知ってほしいから開催しました！ 7月10日「男性乳がん」オンラインセミナー

CNIでは、2008年から男性乳がん経験者とご家族・サポーターのための交流会「男性乳がんの会（メンズBC）」を開催しています。「女性ならではの病気」と表現されることが多い「乳がん」ですが、罹患患者数は少ないもののじつは男性も罹患するということは、まだまだ知られていません。

そこでこの度、公益財団法人正力厚生会のご協力のもと、一般の方への疾患啓発を目的とした「みんなに知ってほしい男性乳がんのこと」と題したオンラインセミナーを開催しました。

沢田晃暢先生（NTT東日本関東病院乳腺外科部長）からは、事前にリクエストのあった女性化乳房や遺伝の問題も含め、男性が乳がんになることを知らなかった方にもわかりやすくお話をいただきました。

Q & A パネル

ディスカッションには男性乳がん経験者として野口晃一郎さんと中野茂杜さん、ご家族の立場で原田雅義さん（姫路獨協大学看護学部助教）にもご登壇いただきました。



ご参加ありがとうございます。

主催：認定NPO法人キャンサーネットジャパン

Report

本イベントの
詳細レポートは
こちらから
ご覧いただけます。

www.cancernet.jp/210710



男性乳がんの
啓発リーフレット



https://www.cancernet.jp/cancer/breast

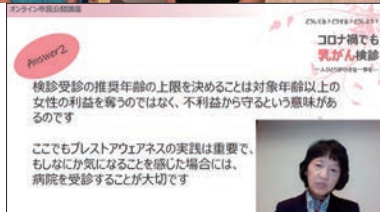
ました。「男性乳がん経験者さん特有の悩み」というテーマでは「乳腺外科の待合室で男性はアウェイ感が半端ない」という経験や、「乳がんは女性の病気」という思い込みから肩身の狭い思をする患者さんが少なくない事などをお話いただきました。「体の異変に気付いても、恥ずかしさから病院へ行く機会が遅れてしまう人がいないように」という優しいお声掛けも心に残る、まさに「みんなに知ってほしい」を詰め込んだセミナーとなりました。

セミナーの熱気冷めやらぬ3時間後、メンズBCとしてオンライン交流会を開催。初参加の方も迎え、セミナーの感想や悩みなどお話が広がりました。

動画は現在アーカイブにて公開中です。

また、セミナー開催と合わせて、三つ折り「啓発リーフレット」を作成しました！無料ダウンロードが可能です。継続的に啓発資料として広くご活用・ご周知いただければ幸いです。

文／大田原



長引くコロナ禍で、がん検診や精密検査の受診控えが社会的に問題となりつつあります。10月のピンクリボン月間に改めて「乳がん検診」受診の必要性と、敬遠されがちなマンモグラフィ検査についての理解を深め、セミナー参加者一人ひとりの一歩に結びつく場になることを目的に、GEヘルスケア・ジャパン株式会社との共催で「コロナ禍でも乳がん検診一人ひとりが小さな一歩を…」と題したオンライン市民公開講座を開催しました。

本講座は、CNCJ養成講座のひとつ「BEC乳がん体験者コーディネーター」15期認定者が発案、企画し、事前収録のナビゲーターや当日の司会進行をされました。

まずはじめに、「乳がん検診受診の必要性」では、聖路加国際病院 放射線科医長・乳房画像診断室 室長の角田博子先生から「検診と診察の違い」「検診の利益と不利益」「プレストアウェアネス」など大切なテーマを取り上げ

てお話しいただきました。

次に、聖路加国際病院 放射線科 小山智美先生にご登壇いただきました。参加者からの質問や素朴な疑問に丁寧にお答えいただき、「マンモグラフィ検査の一連の流れ」もわかりやすく説明いただきました。検査のために胸を圧迫する時間はじつは1分にも満たない短い時間であるにもかかわらずプロセスや痛みを伴う結果として負担を感じるというお話に、ナビゲーターたちも納得していました。

その後の交流会では参加者たちが「次の私の一歩を」を一言ずつ共有して終会しました。動画は現在アーカイブにて公開中です。「みんな、乳がん検診に行きましょう」というメッセージではありませんが、是非ご自身の、そして大切な人のプレストアウェアネス実践の一歩に、本動画を「活用ください」。

最後になりましたが、本講座を企画いただいたBEC 15期生の中村千佳さん、高石早紀子さん、野口真実さん、野北まどかさんに心より御礼申し上げます。

文／大田原

Report

本イベントの詳細レポートはこちらからご覧いただけます。



www.cancernet.jp/
online211024

「オンライン市民公開講座」10月24日（日）開催

「コロナ禍で「乳がん検診」を考える

「BEC/CIN 認定者交流会」オンラインで「もしバナゲーム」

認定者同士の情報交換やブラッシュアップを目的に毎年開催する「アドバンス講習会」ですが、今年は趣向を変え、人生の最期について、「縁起でもない話」を気軽に考えるカードゲームとして有名な「もしバナゲーム」を、オンラインにて開催しました。ゲーム進行役である「もしバナマイスター」に、看護師中村恵さんをお招きし、ゲーム設定や、「つらくなったら途中でやめていい」といった大切なグラドルルールを共有してからスタートし、あつという間の90分となりました。ゲーム後はグループに分かれ、ゲームについての熱いトークやお互いの近況報告などで交流を深めました。

参加者からは「以前から気になっていたのに参加できてよかった」「ACPは敷居が高く感じていたが認定者限定ならと参加できた」「次は対面でやりたい」という感想を多くいただきました。人生で大切にしたいことを見つめ、時に他の人の考えにハッとしたり。そんな「気づきのワーク」になりました。

文／大田原



入れないと思っていたあなたへ。

がんを経験した
女性を支える
がん保険



乳がん・子宮頸がん・子宮体がん再発保障保険



保険詳細はこちら



MICIN Insurance
MICIN 少額短期保険株式会社

関東財務局長（少額短期保険）第102号
〒100-0004
東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル13階
各種お問い合わせ ☎ 0120-851-007
MICIN-2112-S-0070-00

「わかる卵巣がん」～卵巣がんとうまくつきあうには？～ オンラインイベント開催！

10月14日（木）アストラゼネカ株式会社との共催で「わかる卵巣がん」～卵巣がんとうまくつきあうには？～オンラインイベントを開催し約200名の方が参加しました。

最初に大阪医科大学 医学部 産婦人科学教室の藤原聡枝先生が、卵巣がんの特徴や治療について、また遺伝性乳がん、卵巣がん症候群のことや遺伝子検査の意義について話されました。

次にOCT修了生でがんと働く応援団代表の吉田ゆりさんが、卵巣がんと診断されたときの気持ちや、正しい情報を見極めることの難しさなど自身の経験を話され、がんと診断されたばかりの患者を取り巻く環境などについて課題を投げかけました。

そのあと、料理家で乳がん経験者の栗原友さんが、遺伝性乳がん卵巣がん症候群の遺伝子検査を受けた経緯を話されました。検査の結果、遺伝子変異が見つかり「今後がんになる不安を少しでも取り去りたい」という思いからがんが見つかった左胸だけでなく右胸と、卵巣がん発症に備えて卵巣と卵管の予防切除手術を受けたと話されました。

トークセッションでは、医療ジャーナリストでCNJ乳がん体験者コーディネーターでもある増田美加さんがファシリテーターをつとめ、正しい情報を得るために必要なことなどを話し合いました。

文／藤原



右から藤原 聡枝 先生
吉田 ゆりさん／栗原 友さん／増田 美加さん

Report

本イベントの
詳細レポートは
こちらから
ご覧いただけます。



www.cancernet.jp/online211014report



卵巣がんの
ページはこちら

www.cancernet.jp/cancer/ovary

「もっと知ってほしい 卵巣がん、卵管がん、 腹膜がんのこと」冊子改訂！

「もっと知ってほしい卵巣がんのこと」の冊子を新潟大学医学部産科婦人科学教室 主任教授 榎本隆之先生に監修いただき、7年ぶりに大幅に改訂いたしました。

近年、卵管、腹膜で発生したがんも卵巣がんと性質が似ていることから、一つにまとめて取り扱われるようになっていきます。表紙にも卵管がん、腹膜がんを追記しました。また、遺伝性乳がん、卵巣がん（ERCC）とリンチ症候群についても詳しく解説しています。さらに、再発予防を目的として一定期間薬物療法を続ける維持療法や、遺伝子パネル検査のこと、免疫チェックポイント阻害薬、マブパ阻害薬など、新規薬剤も追記されました。卵巣がんと診断され正しい情報を探している患者さんに手にとっていただきたいです。

冊子はキャンサーネットジャパンのサイトから無料でダウンロードが可能です。また、500円以上の寄付で、郵送もしています。

文／藤原



詳細は
こちらから



www.cancernet.jp/ransogan

笑顔につながる 明日を、共に。

アッヴィ合同会社
<http://www.abbvie.co.jp/>



abbvie

結果3 がん治療後の性機能への影響 N=432

詳細は
こちらから
www.cancernet.jp/seikatsu/sexual/themes/story/
発表する総監修の渡邊知映先生
(昭和大学保健医療学部)

インタビュー・体験談・講演公開中

がん患者のセクシュアリティに関する講演動画、海外を含むインタビュー動画はウェブサイトでまとめて公開中です。今後、インタビュー記事も公開していきます。ぜひご利用ください。

文／池田

がんのセクシュアリティ支援事業・ 日本癌治療学会学術集会で 優秀演題に選出

2021年1月〜2月に実施した「がん経験者の性生活への影響の評価とセクシュアリティ支援ツールの開発」のアンケートから回答結果（有効回答数 N=432）を解析し、2021年10月21日〜23日に開催された第59回日本癌治療学会学術集会で口演、優秀演題に選出されました。アンケート調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。結果はまとめてウェブサイトに公開する予定です。

#親子で話そう子宮頸がん Twitterでメッセージ を発信

Japan Cancer Forum 2021のラベンダーリングチャンネルにて開催された「高校生アイデアフェス #仲間と一緒に考える子宮頸がん」では、全国から43名11チームの高校生が参加し、仲間同士で「若者の子宮頸がん認知率を上げるアイデア」や「男性の子宮頸がんへの関心を高めるアイデア」など自分たちで考えた課題に取り組みました。どれも素晴らしい内容です。（※発表の様子はアーカイブにて見ていただくことができます）

「高校生アイデアフェス」を受け11月の子宮頸がん予防月間に#親子で話そう子宮頸がんをTwitterで発信しました。「話づらい、どうしていいかわからない、そんな悩みも親子で共有すれば、子宮頸がんを考える第一歩になる」と呼びかけたところ、さまざまなエピソードやリツイート、いいねをいただきました。親子で子宮頸がんを考えることは子宮頸がんを予防する大きな一歩です。これからも伝えていきたいと思いました。

文／馬場

子宮頸がんの予防も検診も、 10代から知ることが必要だ。

<http://lavender-ring.com/ideaefes.html>
詳細は
こちらから

子宮頸がん啓発・ティール&ホワイトリボン
プロジェクトのサイトは
こちら→ www.sikyukeigan.net

第7回 Over Cancer Together (OCT) がんサバイバー スピーキングセミナー開催

2021年にスタートしたOCT「がんを共に乗り越えよう」キャンペーンは、「あなたの声が社会を動かす」をスローガンに、がん患者が、自身のがん経験から気づいた社会的課題を、自ら発信し周囲に伝えることで、多くの人に知ってもらい、社会全体でその課題解決に取り組むようになることを目指しています。

毎回がん経験者やその家族ら約30名が全国から東京の会場に集まり、一日かけて伝えるために必要な知識やスキルを学びます。このセミナーの価値は、様々な地域や、年齢、がん種の人々が共に学び、交流し、繋がることにあります。コロナ禍で開催を見合わせていましたが、オンラインでも、この声もあり、今回初めてオンラインで開催し、22名が参加しました。参加者からは、「他者の語りに耳を傾けることで少しでも痛みを知れたと思うと嬉しいし、自分の語りを聞いていただくことでグリーフケアになった」とか「行動の起こし方についての話が自分自身の背中を押されたみたいで刺激をいただきました」「新たな素敵な出会いや繋がりに感謝します。襷やバトンを繋ぐことの大切さ。もっとアドボケイトとしてのキャンサーサバイバーになりたい。」などの感想が寄せられました。

開催レポートは
こちらから
www.octjapan.jp/

文／藤原

患者さんのための 肺がんガイドブック 2021年版

悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む 日本肺癌学会 編

患者さんご家族のさまざまな疑問に対して専門家が丁寧に解説。急速に進歩する肺がん治療について正確な情報を掲載し、生活や仕事に関する不安を解消するためのQ&Aも盛り込みました。

B5判 204頁 オールカラー 定価2,420円

(本体2,200円+税10%)

ISBN978-4-307-20449-1

金原出版 <https://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

2021年度CNJがんナビゲーター (CCN) 認定試験報告

昨年、6回目となる2021年度CNJがんナビゲーター（CCN）認定試験は11月12〜13日に実施いたしました。受験者は42名、合格者は28名となりました。「エビデンスのある情報を探せるスキルを身に付けたい」「自分が経験したがん以外の勉強をするきっかけが欲しかった」「知識のブラッシュアップのため」等の理由で受験され、医療従事者や医療関係企業の方からの受験も多くありました。現在、CCN認定者は全国各地にいます。CNJのサイトでは全国各地にいるCCN認定者の人数やそれぞれの活動についてご紹介しています。是非ご覧ください。

<https://www.cancernet.jp/training/ccn>

文／濱中



3月は、大腸がんの啓発月間！

2022年3月6日(日)
市民公開講座開催決定！

動画プログラムも近日公開！お知らせは、
BRC サイト・CNJメルマガにて！

詳細は
こちらから



www.cancernet.jp/brc/

開催予告！大腸がん啓発
ブルーリボンキャンペーン（BRC）
オンライン市民公開講座
「女性にもっと知ってほしい
大腸がんのこと、ストーマのこと」

2022年3月6日(日)にオンライン市民公開講座「女性にもっと知ってほしい大腸がんのこと、ストーマのこと」を開催いたします。現在、全てのがんの中で、女性の大腸がんは罹患者数および死亡者数ともに上位を占めています。そこで、特に女性のみなさんに大腸がんを身近に考えてほしい、そして人工肛門（ストーマ）について広く知ってもらうことで偏見を無くし、大腸がん治療などでストーマを造設した女性の患者さんが、生き生きと過ごすヒントを、この公開講座でお届けしたいと企画しました。第1部「女性と大腸がんのこと」では幸田圭史先生（帝京大学）は総合医療センター外科教授、犬飼道雄先生（岡山済生会総合病院内科医長）のご講演、第2部「もっと知ってほしいストーマのこと」はエマ・大辻・ビッケルスさん（オストメイトモデル・医師）、内田春菊さん（漫画家・作家・俳優）にご登壇いただきます。司会では中井美穂さん（フリーアナウンサー・CNJ理事）です。ぜひ、ご参加ください。

文／馬場



詳細は
こちらから



www.cancernet.jp/tandougan

「もっと知ってほしい
胆道がんのこと」
冊子改訂！

「もっと知ってほしい胆道がんのこと」の冊子を国際医療福祉大学副学長宮崎勝先生と杏林大学医学部内科学腫瘍内科教授古瀬純司先生に監修いただき改訂いたしました。これまで掲載されていなかった肝内胆管がんの治療も追加されました。またマイクロサテライト不安定性検査の結果次第で、免疫チェックポイント阻害薬が治療選択に加わることや、遺伝子パネル検査の結果に応じて治療薬を選ぶ選択肢があること、EGFR融合遺伝子が陽性の場合やMSI融合遺伝子陽性の場合の治療についても追記されています。胆道がんについても詳しく学ぶことが出来る1冊です。

文／藤原



アーカイブ
動画は
こちらから



https://pc-pc.org/

NPO 法人腺友倶楽部

がんネットジャパンが協力させていただいた Mo-FESTA CANCER FORUM は、海外ですでにポピュラーとなっている、口髭（Moustache）による男性がん啓発運動と男性がん（前立腺がん）のフォーラムを組み合わせたものです。2018年より東京で開催してきましたが、2020年は、新型コロナウイルスの影響を受け、オンラインを主体としたフォーラムとなりました。2021年の開催は、コロナ禍がいまだ継続していることもあり、会場での開催と（定員は収容人数の1/3程度）オンライン配信を併用したハイブリッド形式で行いました。

文／木原

Mo-FESTA CANCER FORUM 2021
「男性がん総合フォーラム」
開催報告

全国の信用金庫
ネットワークと
連携を！

連携を！

9月14日(火)に城南信用金庫に事務局を置く全国の信用金庫と連携団体のネットワーク「よい仕事おこしフェア実行委員会」(事務局：城南信用金庫)とがんネットジャパンは包括的連携に関する協定を締結しました。全国各地にある信用金庫、そしてよい仕事おこしフェア実行委員会と連携している企業や団体と、今後のがん啓発を共に考えていくことができるようになったことは大変心強いことです。同日はがんネットジャパン理事長の岩瀬哲と城南信用金庫の川本恭治理事長はじめ両団体の役員が同席し、締結式と会見を開きました。テレビ局はじめ多くのメディアが取材して報じていただけたことに感謝いたします。この連携に至ったのは、小児がんの啓発カラーがゴールド(金)であることから、金がつく城南信用金庫へ小児がんの啓発の相談をしたことが切っ掛けとなりました。今後ネットワークの皆さんと一緒に新しいがん啓発について考えていきたいと思っています。

文／古賀



海外がん医療 TOPICS

患者とともに推進する小児がん医療の研究

医療の進歩に伴い、1980 年以降の米国の小児がん全体の死亡率は半分以上となりました。1950 年代までは不治の病だった小児の急性リンパ性白血病 (ALL) も、今では 90% が治癒します。それでも、がん治療の副作用で難聴や妊よう性などの問題が残ったり、軟部腫瘍や脳腫瘍などでは今も長期生存率が低かったりといった現実もあります。

米国では思春期および若年成人 (AYA) や子供のうち、毎日 43 人が、がんの診断を受けています。しかし、すべてのがん診断に対する小児がんの割合は 4%と少ないため、小児がんの研究では検体やデータ収集、予算を含む資源が少ないといった課題がありました。

米国政府は小児がん対策を加速すべく 2018 年、Childhood Cancer Survivorship, Treatment, Access, and Research (STAR) 法 (小児がんサバイバーシップ、治療、アクセス、調査に関する法) を制定。国立がん研究所 (NCI) の小児がんデータ構想のもと、米国内のほぼすべての小児がん患者の診断、治療と結果、副作用に関するデータを集めた小児がんレジストリをつくりました。研究者はこのレジストリで患者の実際の経験データを共有しつつ、新た

な治療法や副作用を最小限に抑える研究を推進しています。また治療法が確立されていないがん種を中心に小児がん患者の腫瘍組織を収集し、分子レベルでの組織解析を行い、プレシジョン医療に向けた臨床試験への登録や治療方針の決定に役立てています。

一方、2020 年 8 月から施行された Research Accelerate Cures and Equity (RACE) for Children 法 (小児の治療と公平性を促進する研究に関する法) では、成人がん治療用の新薬開発において、それが小児がんに関連性の高い分子標的薬の場合は、小児でも臨床試験を実施することを義務付けています。これにより小児が臨床試験に参加し、小児がん向けの新薬が開発される機会も増えることになります。

また近年の免疫療法の登場で、一部の小児がんでも治療が変わりつつあります。いくつかの CAR-T 療法は、小児と若年成人の白血病治療として承認されており、NCI では骨肉腫、神経芽腫、メラノーマなどの固形腫瘍の小児患者を対象とする CAR-T 細胞療法にも取り組んでいます。小児免疫療法開発ネットワーク構想により、免疫療法をベースとした小児がんの治療法を拡大する道も急速に開かれつつあります。

情報提供／海外がん医療情報リファレンス

遺贈寄付の お願い

あなたの遺す志を、がん患者支援へ
託していただけませんか？

あなたからの遺贈寄付でできること
専門医による講演会実施・講演動画の配信
治療情報や経験談冊子を作成し医療機関へ届ける
がんについての養成講座や認定試験
日本最大級のがんフォーラムの実施
患者さん同士のピアサポートなどの応援

～遺贈寄付に関するご相談はこちらへ～

電話番号 : 070-8519-0336 / 03-5840-6072
電話受付時間 : 平日 10:00 ~ 17:00 (年末年始を除く)
メールアドレス : info@cancernet.jp

新年のご挨拶

2022 年の幕開けとなりました。キャンサーネットジャパン 30 周年という節目で迎えた新年は、新型コロナウイルスの変異株の影響を受け未だ不安が続いています。昨年は、コロナ禍で厳しい面会制限のなか頑張っている小児がんのこども達を応援する企画を数多く実施しました。がんの情報をもっと広く届けるために、新しいネットワークへの仲間入りもいたしました。

心のごもったご寄付をたくさん頂戴し、活動を支援いただきましたこと、また医療機関が逼迫した状況下であっても、時間を惜しまず協力してくださった医師や研究者の皆様、この場を借りて深く感謝申し上げます。今年も CNJ スタッフは変わらぬビジョンを持ち、オンラインでの新しい発信方法を試みつつ邁進してまいれる所存でございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

キャンサーネットジャパン常務理事
プロジェクトマネージャー

古賀 真美



support

私たちの活動を
応援してください



寄付で応援

- ・ マンスリー、都度寄付クレジット対応 OK!
- ・ 遺贈寄付のご相談もお受けしております



みなさまからの継続的な支援により、多くの患者さんやご家族、
その支援者、医療者にエビデンスに基づいた情報を届けることができます。
寄付で、キャンサーネットジャパンと共に日本のがん医療を変えましょう。

キャンサーネットジャパンに寄付された方は、確定申告によって寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。

チャリボンで応援



Know (≠NO) More Cancer プロジェクト
～古本が寄付になる!～

読み終えた本や不要になった本*、整理したい本などを「チャリボン」にお送りください。その買い取り価格がキャンサーネットジャパンへの寄付になります。

寄付の際に
支援先名称を
「キャンサーネットジャパン」を
選んでください!

<https://www.charibon.jp/>



* 本・CD・DVD
ゲームソフト
書損じハガキ

※こちらのものは買い取れません。
「ISBN」のない本/百科事典/コンビニコミック/個人出版など。詳細はサイトにご確認ください。

古着で応援



着なくなった洋服
眠っているブランド品が寄付になる!

Brand Pledge は、ブランド品買取サービス「ブランディア」と寄付プラットフォームサービス「Syncable」の運営する買取寄付サービスです。
洋服や様々なファッションアイテムを手間をかけずに簡単に寄付できます。

<https://brand-pledge.jp/associate/cancernetjapan/>

洋服・アクセサリ
バック・スカーフ
ハンカチ・タオル

※こちらのものは買い取れません。
使用困難なシミやダメージがあるもの、
子ども服など。詳細はサイトにご確認ください。

疾患啓発・応援グッズ購入で応援

啓発グッズをお買上げ頂き創出した利益は、全てキャンサーネットジャパンの活動資金として活用されます。



小児がん啓発
ゴールドリボン ピンバッジ
¥500



乳がん啓発
ピンクリボン ピンバッジ
¥500



全がん啓発
ラベンダーリボン ピンバッジ
¥500



ラベンダーリング
うれしカルタ
¥500



小児がん啓発
レモネードスタンドランチトート
¥2,000



男性乳がん啓発
ピンバッジ
¥1,000



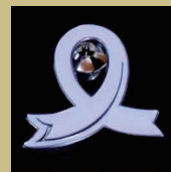
すい臓がん啓発
パープルリボンタイピンタイプ
¥1,000



子宮頸がん啓発
ティール&ホワイトリボン
ピンバッジ
¥500



大腸がん啓発
ブルーリボン ピンバッジ
¥500



胃がん・食道がん啓発
ペリウィングルリボン ピンバッジ
¥500